

研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
食品安全研究会					
食品微生物研究部会	<p>食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で(企業の枠を超えて)研究し解決を目指す。</p> <p>食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。</p> <p>当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。</p>	<p>部会員が集まり定期的に交流や情報交換を行える場としての部会運営の再整備(アフターコロナ対応としての集まる場の整備)</p> <p>新規研究PJの立案および他機関との積極的な連携の実施</p>	<p>分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 ・進捗なし。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 ・進捗なし。</p> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動 ・活動なし(追加試験について日本缶詰びん詰レトルト食品協会にて調整中)。</p> <p>b. 耐熱性試験法検証活動 ・第4弾試験(複数企業で調製した芽胞液による耐熱性試験)の考察にあたり、使用芽胞液の芽胞率確認等、追加試験を実施した。結果を取りまとめ中。</p> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 ・以下の読み合わせおよび和訳を継続実施中。 FAO/WHO Microbiological Risk Assessment Series 24 "Statistical Aspects of Microbiological Criteria</p>	<p>各分科会の研究活動に加え、各社が共通に抱える食品微生物関連の課題について、部会全体でのディスカッションおよび関連団体等との連携を通じ、課題抽出と解決策の検討を行う。</p>	<p>・(公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会</p> <p>・(独)製品評価技術基盤機構</p>

			Related to Foods"		
食品リスク研究部会	食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	① 食品リスク研究に関する勉強会を3回以上開催し、情報発信する。 ② 「ナチュラルミステイク」の情報発信。	① 2023年度の勉強会についてWGを組み、オンラインMTGを2回開催し、スケジュール、テーマ、講師の案を作成した。 ② 「ナチュラルミステイク」につき、ジャーナリストや食品リスク研究者への献本を実施した。	① 講師の方々と調整し、勉強会のスケジュールを決定していく。 ② 献本先の先生方にアンケートを実施し、情報発信につながったかを確認する。	
香料研究部会	食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—	特になし。	—	—
食品領域の動物実験代替推進プロジェクト (AATプロジェクト)					
全体進捗	<p><活動目的></p> <p>1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究WGテーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。 情報収集・発信（国際ワークショップ内容のレポートによる発 	<ul style="list-style-type: none"> 3月13日 プロジェクト全体会議を開催（Web開催） プロジェクト全体及び各WGの進捗と今後の活動方針・計画を共有し、全体にて承認。外部発表予定並びに演者選定について情報共有。2022年度の活動収支（確定）並びに2023年度の活動予算について報告。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回全体会議を6月5日に予定。 日本毒性学会（6月）、日本動物実験代替法学会（11月）において活動内容の発表を計画。 	<ul style="list-style-type: none"> 国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）、アカデミア等の専門家 関連学会（日本動物実験代替法学会等） ヨーロッパ、アジア等のILSI支部

	2) 動物愛護の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。	信、シンポジウムの開催)。			
体内暴露予測ワーキンググループ (WG)	食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装	<ul style="list-style-type: none"> ① 昭和薬科大学山崎研に構築した in silico 動態予測モデルの実装 ② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握 ③ ケースレポート対象化合物の体内曝露予測 	<ul style="list-style-type: none"> ① 山崎研の最新動態予測モデルの精度を更に検証すべく、予測モデル構築過程で活用されなかった新規ヒト動態文献データを (食品成分) を収集中。 ② 今後の進め方をWG 内で議論。検討①の in silico モデルで課題となる特徴を明確化した上で、課題解決可能な新規ツールの適用性を見極める、という手順を改めて確認。 ③ 進捗無し。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 予測精度の更なる検証を 6 月中を目途に進めつつ、動態予測モデルの実装に向けた適用範囲明確化とシステム整備を実施。 ② ①の課題見極めと連動して、課題解決につながる新規ツールの選定および適用性把握の進め方を決定。 	・山崎浩史教授 (昭和薬科大学)
データベース WG	食品成分の既存毒性情報 (文献等) を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。	有害性評価支援システム統合プラットフォーム (HESS) を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法の AAT 参画メンバーへの公開	昨年までに 176 種の食品成分に関する毒性試験のデータベース化を完了し、当該データベースによる HESS を用いた Read across の予測精度向上に関する検証を開始。NITE 様の協働にて実施された食品成分 15 種の Read across 結果を元に 10 種の成分について原著論文との比較検証を行うこととした。現在ステアリングメンバーにて検証作業を実施中。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月12日を期日として検証作業を完了予定。 ・6月1日にステアリングメンバー会議を行い、検証内容に関するディスカッションを実施予定。 	

<p>ケースレポート WG</p>	<p>NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。</p>	<p>第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとし、ラット肝細胞を用いた試験から in vitro PoD を求め、評価スキームの妥当性を検証する。</p>	<p>ヒトでの有害事象およびラットでの肝細胞壊死の報告があり、毒性発現機序が明らかなピロリジジナルカロイドのリデリインを評価対象とした。細胞系には動物実験代替および評価戦略構築の観点からラット肝株化細胞 (BRL-3A) 選択し、in vitro assay 系における毒性発現を、凍結肝細胞を用いた文献報告と比較した。その結果、細胞間で毒性発現濃度に違いが確認され、薬物代謝酵素活性の違いが示唆。</p>	<p>今後の方針を WG で議論し、BRL-3A の毒性評価における限界の確認と併せて、設定した評価戦略の妥当性を検証することとした。In vitro assay 系では試験のどの値を PoD とするか、in vivo assay 系ではどの試験 (投与期間) の値を PoD とするののかについて、文献報告を確認しながら WG で議論中。</p>	
<p>国際ワークショップ & シンポジウム WG</p>	<p>動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。</p>	<p>評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。</p>	<p>2021 年 10 月に開催された ILSI 国際ワークショップの内容をまとめたワークショップレポートが動物実験代替法の国際誌である ALTEX に Meeting Report として掲載された (doi:10.14573/altex.2209262/vol.40 No.2, 2023)。 また、2023 年 2 月 3 日に開催された「ILSI Japan シンポジウム 食品領域の動物実験代替 -現状と動向、未来に向けた取り組み-」の内容をフラッシュレポートとしてまとめた。本稿は 2023 年 8 月発刊の「イルシー」誌 No. 155 に掲載される予定である。</p>		
<p>研究会・部会・委員会・分科会</p>	<p>活動ビジョン・ゴール</p>	<p>年度目標</p>	<p>進捗・課題</p>	<p>予定・行動計画</p>	<p>関連団体等</p>

<p>バイオテクノロジー研究会</p>	<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<p>1. ERA プロジェクト調査報告(年4回) 2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ 3. 第16回 ISBR (International Society for Biosafety Research) 2023 への安全性評価の専門家の派遣 4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表</p>	<p>3月2日第1回バイオテクノロジー研究会開催。(オンライン・会議室ハイブリッド形式) ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号の論文抄録の収集中。 ISBR2023 (4/30-5/4) の派遣者ためのロジスティクス、Parallel Workshop においてゲノム編集の規制や国際的試験要求のセッションの参加依頼、別途 Bayer Crop Science の研究施設見学の調整等。 4月28日、29日、派遣者および一部同行者出発。 バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS (2022年12月開催) の「イルシー」誌最終原稿確認。 5月発刊。 同 WS の日程調整開始。明治大学中島教授、千葉大学児玉教授参加ご了承。</p>	<p>ERA プロジェクト調査報告 No. 63 号のレビュー (3/2)、監修、印刷。 ERA プロジェクト調査報告 No. 64 号の論文抄録の収集及び事前監修依頼。 ISBR2023 への派遣者全体会議のアレンジ-旅程の確認、発表や情報収集の分担等。 バイオテクノロジー応用微生物を利用して生産された食品・食品添加物の安全性に関する WS 準備開始。</p>	<p>農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系 & つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
<p>栄養健康研究会</p>					
<p>栄養研究部会</p>	<p>「健康寿命延伸」はグローバルな持続可能な開発目標 SDGs の目標 3「すべての人に健康と福祉を」に合致することから、「健康</p>	<p>「健康長寿延伸」のための最新のエビデンスを継続して発信していく。 ●公開セミナー(有料)を Zoom ミー</p>	<p>2023年からは、活動テーマを「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは」とし、「世代別の健康と栄養」に関する公開セミナーをシリーズ化して開催する。 進捗は、以下の通り。</p>	<p>計画は、以下の通り。 1.6月23日：第1回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：妊婦・乳幼児編」を開催。 2.9月：第2回公開セミナー「健</p>	

	<p>寿命延伸」をキーワードとした活動を継続する。</p>	<p>ティングで 1 年に数回開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●セミナー参加登録者に対しては、オンデマンド配信を実施する。 	<p>① 3 月 6 日：2023 年第 2 回部会（Zoom）を開催し、以下の点について意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 1 回セミナー（6 月）に向け、準備作業の担当者を決めた。 ● 第 2 回（9 月）と第 3 回（12 月）の公開セミナーのテーマと講師について、意見交換した。 <p>② 4 月 11 月：2023 年第 3 回部会（Zoom）を開催し、以下の点について意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 関連学会・協会等の団体のホームページ・メルマガ掲載依頼メールの送付要領・送付先の確認。 <p>③ 4 月 17 日：ILSI Japan のホームページに第 1 回セミナーの案内を掲載。</p> <p>④ 4 月 25 日：2023 年第 4 回部会（Zoom）を開催し、以下の点について意見交換。</p> <p>第 2 回（9 月）と第 3 回（12 月）のテーマと講演を依頼する先生方について、再度、意見交換した。</p>	<p>康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：成長期編（案）」</p> <p>3. 12 月：第 3 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：中高年期編（案）」</p> <p>4. 2024 年 3 月：第 4 回公開セミナー「健康寿命延伸に向け、各世代で解決すべき課題と対策とは：老年期編（案）」</p>	
GR プロジェクト	食品・食事の血糖応答性の簡易評価法（GR 法）の確立と普及	GR 法の確立・発表論文発表	論文投稿準備（英文校正、共著者レビュー） GR 法詳細条件の検討	論文投稿 GR 法に関する討論会の開催	

茶類研究部会・茶情報分科会	茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交換を深めると共に、外部からも情報を得る。	—	特になし	—	—
---------------	--	---	------	---	---

CHP (Center for Health Promotion)

Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及 ➤ 介護予防教室の開催（自治体、社会福祉協議会、企業） ➤ 地域リーダーの育成（大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター） ➤ 論文等、科学的成果の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2022年度墨田区の委託事業「すみだテイクテン教室」の効果についての解析ならびに報告書の提出。 ➤ すみだテイクテン自主グループ交流会の開催（3/30 すみだ女性センター，現在墨田区内で教室終了後に自主的に活動をしている7つのサークル参加者を対象）。 ➤ 2023年度「すみだテイクテン教室」春教室開催（4/18, 4/25, 墨田区総合運動場）。 ➤ 共同研究に関する論文投稿の準備。 	介護予防教室、地域リーダー育成養成講座の開催。 論文投稿。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 石巻専修大学 ✓ 鹿児島大学 ✓ 島根大学 ✓ 札幌医科大学 ✓ 東京都健康長寿医療センター研究所 ✓ 国立健康長寿医療センター ✓ 墨田区 ✓ 横浜市社会福祉協議会 ✓ 岩国市社会福祉協議会 ✓ 吉賀町社会福祉協議会 ✓ 津和野町シルバー人材センター ✓ 益田市シルバー人材
---	--	---	--	----------------------------------	---

					センター
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10! [®]) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP)のプロジェクトとして、工場など職場の栄養改善プロジェクトを東南アジア各国で推進。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ フィリピン：「フィリピンの栄養強化米プロジェクト 2022 (調査研究)」 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2022 年度プロジェクト報告を NJPPP 運営委員会で実施。同日、報告書提出 (3/16)。 ➤ 関係団体で 2023 年度プロジェクト推進について相談 (4/12)。 	NJPPP 運営委員会 (6/1) にむけ、プロジェクト提案を検討。	✓ Food and Nutrition Research Institute (FNRI：フィリピン食品栄養研究所)
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ ベトナム：「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」ビジネスモデル構築、並びに 2024 年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2022 年度プロジェクト報告書を NJPPP に提出 (3/13)。NJPPP 運営委員会で報告を実施 (3/16)。 	NJPPP 運営委員会 (6/1) にむけ、プロジェクト提案を検討。	✓ National Institute of Nutrition (ベトナム栄養研究所)
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ ミャンマー：「完全オンラインによるブロックチェーン 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2022 年度プロジェクト報告書を NJPPP に提出 (3/13)。NJPPP 運営委員会で報告を実施 (3/16)。 	現地企業の CSR 事業として、従業員の健康推進を目的としたプロジェクトの展開をめざす。	

		<p>ン技術を応用した職場における栄養教育」 栄養教育推進に焦点を当てたビジネスモデル構築に向けた展開を計画。</p>			
		<p>➤ インドネシア:「インドネシアにおける健康的な食事の普及に関する調査 2022」 ビジネスモデル構築、並びに2024年パリ栄養サミットに向けプロジェクトの総括を実施。</p>	<p>➤ 2022 年度プロジェクト報告を NJPPP 運営委員会で実施 (3/16)。報告書提出 (3/17)。</p>	<p>NJPPP 運営委員会 (6/1) にむけ、プロジェクト提案を検討。</p>	<p>✓ ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.) ✓ SUN Business Network Indonesia</p>
CHP 全体	<p>日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技</p>	<p>➤ SUN Business Network Japan (仮称: SBNJ) 事務局機能誘致に向</p>	<p>➤ SBN と戦略パートナーシップ締結に向けて進めてきたが、WFP 日本を通じて、「戦略的パートナーシップについても WHO コードを順守しない BMS 企業の参</p>	<p>SBN との関係構築により、効率的な情報収集に繋げる。 必要に応じて、他の国際団体との関係構築も進める。</p>	<p>✓ Global Alliance for Improved Nutrition (GAIN) ✓ Bill & Melinda Gates Foundation</p>

	術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGsに基づいた社会貢献を行う。	けた活動継続。 ➤ SDGs 貢献プラットフォームの形成。	加団体と協力できない」との連絡を受領。農林水産省、WFP と今後の対応を検討する。		<ul style="list-style-type: none"> ✓ SUN Business Network (SBN) ✓ World Food Programme (WFP) ✓ アジア開発銀行
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
国際協力委員会	アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規動向及びリスク評価等の情報収集・共有化と ILSI Japan 関係者への成果報告	10月26-27日開催 予定の BeSeTo 会議（アジア地域 ILSI 支部との情報交換会）への参加、情報交換	<p><進捗></p> <p>3月に委員会の会合を開催。ILSITaiwan 発足 10周年ではあるが、多くの企業で対面参加は困難な模様。ビデオ発表/Web 参加の可能性を打診いただくことに。</p> <p><課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 議案確定への意見出し 2) 参加者、発表内容の確定 3) 会議の新たな名称案の検討 	<p>5月 委員会にて対応検討を本格化 議案確定への協力</p> <p>6月 参加者、発表内容(発表方法)の確定</p> <p>10月 BeSeTo 会議開催(台湾)</p>	アジア地域の ILSI 支部
食品機能性研究会・AI 栄養・機能性研究部会					
AI 栄養機能プロジェクト	実生活から創出される莫大な量のリアルワールドデータについて、最新のデータサイエンスおよび AI 技術を活用し、様々な生活習慣と健康との関係性を解明することで、一人ひとりに適した情報提供を可能と	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予測モデル論文化 ・フレイルナレッジグラフ作成 ・ナレッジグラフスキル(育成) ・北大阪健康医療都市(健都)での発信 	<p>○ 3/8、AI 合同報告会を開催し年次報告を実施。「健康・栄養分野の知識拡張」「和食 WG の論文化に関して」「活動目標と今後の計画」の 3 題を発表。</p> <p><23 年度スケジュールと実施内容について></p> <p>○ 予測モデル(AI 創出)WG、和食 WG に加え、23 年度にナレッジ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 和食 WG は投稿済みの論文に次ぐ、第 2 弾の研究に NEXIS データを活用し解析を開始する。 ○ 健都見学会を企画検討中。 ○ 健栄研 山田先生からのご提案： NEXIS とは異なるビッグデータを協力研究員が解析できるようとの提案。倫理 	国立健康・栄養研究所(健栄研)

	<p>する AI システムを構築する。</p>		<p>ラフ WG を追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予測モデル WG、和食 WG とも論文化を検討中。 ○ ナレッジグラフ WG については NEXIS データへのアクセスが不要で取り組める内容も多くあり、技術を習得したいという方を含め各社からメンバーを募集。4/13 にキックオフ会議実施。健栄研の山本・井上両先生より概要説明あり。 ○ 健栄研の大阪移転に伴い、健都イベントスペースを活用した外部発信を検討。公表内容はアクセプト後の論文内容がメイン。 ○ NEXIS データのリモート運用について（健栄研 進藤先生）：Soliton Secure Desktop を用いた健栄研の PC 画面をリモート操作。各社が準備する専用の端末の要件・使用ルールは、あらためて整理・共有頂く。7月を目途に利用開始できるよう準備中。 	<p>受講の有効期限を確認後、2～3 か月の準備期間で利用開始できる見込み。</p>	
<p>AI ディアトロフィ研究部門</p>	<p>数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代謝モデルの領域拡大 ・機能伝達経路のイジングモデル ・AI 教育 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3/8、AI 合同報告会を開催し年次報告を実施。「免疫代謝に関するイジングモデルに向けてー細胞実験の考え方ー」「量子コンピュータの現状&ビタミンCのイジングモデ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の報告会に際し、 ●AI リテラシー勉強会： ・これまで実施してきた Python プログラミング基礎の延長として AlphaFold2 	<p>東北大学未来科学技術共同研究センター 東北大学大学院農学研究科</p>

	速で安価に食の機能性・安全性を予測するAIシステムを構築する。		<p>ル化の報告」「活動目標と今後の計画」の3題を発表。</p> <p>○ 東北大と参画企業による報告会(3/27, 4/25: Zoom)が開催され、AI教育の講義、情報共有などが行われた。</p> <p>○ また、4/25の会では、参加企業からなるAIディアトロフィ分科会と東北大先生方との間で、今後のAI教育でとりあげるテーマに関するディスカッションが実施された。</p>	<p>(LocalColabFold)の操作に関する勉強会を今後上期に予定。</p> <p>●総説論文の作成: ・総説論文第2弾(食品の品質・栄養・代謝におけるAIの活用に関する)を取りまとめており、今期投稿予定。</p>	
情報委員会・編集部会	<p>・調査・研究活動とその成果の発表</p> <p>・科学情報の普及</p> <p>・国内外の関連機関との交流・連携</p>	<p>1. 活動報告配信(年6回)</p> <p>2. 機関誌「イルシー」の発行(年4回)</p> <p>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊(年4回)(女子栄養大学出版部との共同事業)</p> <p>4. 種々出版物発刊のコーディネーター</p>	<p>1. 2023年1,2月分配信(3月)。</p> <p>2. 「イルシー」</p> <p>・154号:編集中(2023年5月発行予定)</p> <p>・155号:編集中(2023年8月発行予定)</p> <p>2. 「栄養学レビュー」誌</p> <p>・120号:校了 発行予定(5/20)</p> <p>・121号:編集中(2023年8月発行予定)</p> <p>・122号:編集中(2023年11月発行予定)</p>	<p>1. 部会活動報告の配信(1月、3月、5月、7月、9月、11月)</p> <p>2. 機関誌「イルシー」の発行(2月、5月、8月、11月)</p> <p>3. 「栄養学レビュー」誌の発刊(2月、5月、8月、11月)</p>	

【事務局からのお知らせ】

理事会	第2回理事会が令和5年4月19日(水)に開催された。
-----	----------------------------

	<p><決議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新理事の選任 味の素（株）のスムリガ・ミロ氏が選任され、承認された。 2. 理事長代行と事務局長の選任 児島理事長の辞任に伴う、次期理事長の選出は次回理事会にて実施。それまで谷口茂副理事長を理事長代行として運営することを決議した。 <p><討議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長選出に関して 次回理事会を対面あるいはハイブリッドにて開催しより深く論議できるよう環境を整え、結果をふまえて適任な方を理事長に選任することとした。 2. 第 13 回 DOHaD 学会 2025 協賛依頼 討議の結果、協賛する方向で確認した。 <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本部動向アップデート 3 月 22 日のアッセンブリー・ボードにおいて、前回の本部総会の赤字収支を受けて総会の再定義や次回総会開催について各支部からの分担金の提案が本部よりあった。 2. ILSI Global Research Program の結果について 昨年、ILSI 本部が各支部から募集した ILSI Global Research Program 案の内容を説明。各案は現在、専門家会議にて精査中。 3. その他 今年 10 月開催の「食品開発展 2023」の協賛依頼があり昨年と同様に協賛実施。
事務局	なし。